公益社団法人日本歯科先端技術研究所

関東・甲信越地区開催講演会

「歯科におけるボツリヌス療法」

～新たな咬筋コントロールによる咬合力の適正化～

講師：古畑　梓先生

医療法人社団梓会 古畑いびき睡眠呼吸障害研究所
日本歯科大学附属病院　内科臨床准教授
古畑歯科医院 副院長

講義・実習
20名限定

2023年 7月30日 日

10:00～16:00

【カリキュラム予定】

1. ボツリヌストキシンの歴史
2. ボツリヌス療法の理論～歯科における適応と症例～
3. 解剖学の復習
4. 筋電計を用いる、科学的根拠に基づいた筋コントロールによる歯科治療への応用方法
5. 症例供覧：2000 件超の症例からみる歯科領域におけるボツリヌス治療の効果と期待
6. 番外編：ガミースマイル、オトガイのシワの改善
7. 実習

■「閉塞性睡眠時無呼吸症候群治療において、口腔内装置の使用により発症・悪化した有害事象に対するボツリヌス療法の有用性」

閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者に対して用いる口腔内装置（Oral Appliance:OA）は、下顎を前方位にて保持する歯科的装置であり、この装置の装着を毎晩かつ長期間繰り返す。これにより、OA の破損、咬合不全、顎関節症等の様々な有害事象を発症し、OA を継続装着できない患者が近年増加している。本研究では、有害事象の発生には咀嚼筋の過活動が誘引であると仮定し、患者の咀嚼筋に過活動を抑制するボツリヌストキシンを投与し、有害事象の改善効果を検証した。

終夜ポリグラフ検査によるOSAS と確定診断がされ、OA 治療の適応となったOSAS 患者の中で有害事象が発症・悪化した92名の患者を対象とした。対象患者の咀嚼筋の活動量を筋電計にて測定し、OA の破損、下顎の前方移動を含む咬合不全、顎関節症等の有無を確認し、ボツリヌストキシン投与後の筋活動量の変化、有害事象の改善効果を検証した。ボツリヌス療法による咬筋活動量は、咬筋電位の中央値が2mV から0.5mV と減少し、抑制効果に有意性（$P<0.05$）を認められた。筋活動量の抑制効果により、下顎の後方移動を含む咬合の安定、顎関節症の寛解など有害事象の改善効果が認められた。ボツリヌストキシンの咬筋投与は有害事象の改善に加え、肩こり、頭痛、知覚過敏、ブラキシズム等にも有益であることが示唆され、患者のQOL の向上に寄与すると考えられる。

申し込み
お問い合わせ

公社）日本歯科先端技術研究所事務局
TEL: 03-5476-2004
nissenken@dental.email.ne.jp

必要記入事項
- 氏名
- 氏名（カタカナ）
- E-mail
- 連絡先TEL

- 日先研浜松町研修室での講義・実習です！(昼食用意有り)
- 会費: 会員15,000円・非会員30,000円(当日徴収) 上記へ申し込んでください。

関東・甲信越地区会長　柴垣博一